

但馬地域のギフチョウ

黒井和之

はじめに

当会では、但馬地域の昆虫相の分布及び生態を継続して解明していくという目的で、ギフチョウ、オオムラサキ、ムカシトンボ、ハッチョウトンボ、ラミーカミキリなどを注目昆虫としてとりあげている。ムカシトンボ、ラミーカミキリについては、山崎・谷角両氏によってそれぞれ報告がされている。今回はその中から、同好者に人気の高いギフチョウ *Luedorfia japonica* の分布についてまとめてみたい。

当地域で本種の採集記録の報文が散見できるようになったのは、1960年代に入ってからであろう。しかし、当時は限られた一部の同好者の記録が残っているだけである。本格的な採集記録が見られるようになったのは1970年代後半からで、特に1980年代に入り、新産地が相次いで報告されている。

現在、但馬地域にはデータのない古い記録などを含めると77産地が報告されている。それらすべての棲息地の全データを公表すると共に、簡単ではあるが現況をまとめる次第である。

データ

1. 豊岡市妙楽寺

1964-IV-4, 4♂♂, 木下賢司; 1964-IV-9, 5♂♂1♀, 小崎茂樹; 1964-IV-21, 1♂, 小崎茂樹; 1965-IV-1, 1♂, 木下賢司; 1965-IV-17, 4♂♂, 木下賢司; 1966-IV-8, 3♂♂, 木下賢司; 1968-IV-10, 3♂♂, 木下賢司; 1968-IV-13, 4♀♀, 木下賢司; 1970-IV-18, 4♂♂, 木下賢司; 1970-IV-19, 1♂, 木下賢司; 1972-IV-5, 3♂♂, 木下賢司; 1972-IV-14, 1♀, 木下賢司; 1974-IV-15, 1♂1♀, 木下賢司; 1975-IV-15, 1♂, 木下賢司; 1979-IV-4, 2♂♂, 福井丈嗣; 1982-IV-12, 3♂♂, 前平照雄; 1985-IV-8, 1♂, 福井丈嗣; 1988-IV-16, 1♂, 谷角素彦; 1988-IV-17, 2♂♂, 黒井和之; 1988-IV-19, 4♂♂, 谷角素彦; 1989-IV-7, 7♂♂, 前平照雄

2. 豊岡市高屋(金山)

1977-IV-11, 3♂♂, 木下賢司; 1979-IV-7, 2♂♂, 木下賢司; 1979-IV-7, 2♂♂, 福

- 1971-IV-11, 1♀, 谷角素彦
14. 豊岡市大師山
1989-IV-7, 2♂♂, 前平照雄
15. 豊岡市中ノ谷
1980-IV-26, 卵, 木下賢司
16. 豊岡市大門山
1980-IV-21, 卵, 木下賢司; 1987-IV-18, 卵, 木下賢司
17. 城崎町紅葉平 (来日岳)
1975-IV-16, 7♂♂1♀, 足立義弘; 1976-IV-17, 木下賢司; 1976-V-4, 2♂♂, 木下賢司; 1990-IV-1, 1♂, 黒井和之; 1990-IV-6, 5♂♂, 谷角素彦・加野正
18. 城崎町来日岳
1968-IV-21, Norihiko Yoshida; 1979-IV-10, 1♂, 福井丈嗣
19. 城崎町結
1983-IV-14, 2♂♂1♀, 木下賢司
20. 竹野町床瀬 (大岡山)
1980-IV-18, 3♂♂1♀, 木下賢司
21. 竹野町小城
1980-IV-20, 小崎茂樹
22. 竹野町三原
1988-V-5, 5♂♂1♀, 黒井和之
23. 竹野町桑野本
1988-V-5, 1♂, 黒井和之
24. 出石町城山
1979-IV-11, 4♂♂, 木下賢司; 1980-IV-8, 3♂♂, 木下賢司; 1981-IV-17, 1♂♂, 福井丈嗣; 1983-IV-14, 1♂1♀, 木下賢司; 1984-IV-18, 2♂♂, 前平照雄
25. 出石町奥小野 (法沢山)
1980-IV-10, 2♂♂, 木下賢司
26. 出石町尾崎
1980-IV-10, 6♂♂, 木下賢司
27. 出石町鳥居
1981-IV-12, 3♂♂, 福井丈嗣; 1989-IV-3, 4♂♂, 前平照雄; 1989-IV-7, 4♀♀, 前

平照雄

28. 出石町桐野（床ノ尾山）
1977-IV-14, 2♂♂, 木下賢司
29. 出石町袴挟
1980-V-1, 木下賢司
30. 但東町高竜寺ヶ岳
1979-IV-11, 4♂♂, 木下賢司
31. 和田山町竹田（竹田城）
1989-IV-6, 1♂1♀, 前平照雄
32. 和田山町竹ノ内（糸井溪谷）
1977-IV-22, 1♂, 木下賢司；1979-IV-17, 2♂♂, 木下賢司；1979-IV-18, 2♂♂, 福井丈嗣；1980-IV-19, 1♂, 木下賢司；1985-IV-8, 1ex., 衣川昌司；1985-IV-8, 1ex., 和田勝；1985-IV-14, 1ex., 山崎喜彦；1985-IV-20, 2exs., 村上和幹；1985-IV-20, 1ex., 和田勝；1986-III-27, 2exs., 山崎喜彦；1986-IV-13, 1ex., 山崎喜彦；1986-IV-20, 2exs., 山下雄路；1986-IV-24, 1ex., 寺沢；1988-IV-17, 6♂♂, 山崎喜彦
33. 朝来町奥田路
1975-V-18, 八木弘
34. 生野町栃原
1964-V-6, 尾崎勇
35. 八鹿町寄宮
1982-IV-5, 3♂♂, 木下賢司
36. 八鹿町妙見山
1963-V-3, 妙見山資料館々報第3号
37. 香住町三川山（山頂付近）
1979-IV-24, 2♂♂, 木下賢司；1975-V-11, 1♂1♀, 足立義弘；1980-V-12, 1♂, 木下賢司；1981-IV-24, 1♀, 木下賢司；1981-V-1, 2♂♂1♀, 木下賢司；1988-V-5, 3♂♂, 黒井和之
38. 香住町三川（三川山）
1982-IV-20, 1♀, 福井丈嗣；1986-IV-30, 2♂♂2♀♀, 前平照雄
39. 日高町稲葉（三川山）

- 1981-V-5,1♂,谷角素彦; 1985-IV-24,4♂♂,木下賢司
40. 日高町進美寺山
1980-IV-11,2♂♂,木下賢司
41. 日高町藤井
1982-IV-5,2♂♂,木下賢司
42. 日高町山宮(大岡山)
1984-V-5,1♂,木下賢司
43. 日高町金山(金山峠)
1987-V-3,1♀,足立義弘
44. 温泉町蒲生峠
1986-IV-20,3♂♂,足立義弘・黒井和之
45. 温泉町檜尾
1983-V-2,1♂,黒井和之; 1986-IV-29,1♂,黒井和之
46. 温泉町宮脇
1983-V-1,1♂,黒井和之
47. 温泉町後山
1986-IV-14,2♂♂,黒井和之
48. 温泉町海上
1986-V-4,1♂,黒井和之
49. 温泉町越坂
1987-IV-17,2♂♂,黒井和之; 1986-IV-20,1♂,足立義弘
50. 温泉町春來
1987-IV-19,3♂♂1♀,黒井和之; 1987-IV-20,3♂♂,黒井和之; 1988-IV-25,1♂,
黒井和之
51. 温泉町扇ノ山(小ツッコ)
1982-V-9,1♂,黒井和之; 1983-V-2,2♂♂,黒井和之; 1986-V-11,1♀,黒井和
之; 1986-V-12,1♂,黒井和之; 1988-V-16,2♂♂,前平照雄
52. 温泉町扇ノ山(ショウブ池)
1985-IV-21,1♂,黒井和之; 1986-V-12,1♂,黒井和之
53. 浜坂町観音山
1970-IV-15,1ex.,尾崎勇; 1986-IV-14,4♂♂,黒井和之; 1988-IV-27,1♀,黒井

和之

54. 浜坂町久斗山

1987-IV-29, 1ex., 山本一幸

55. 浜坂町居組

1990-IV-2, 5♂♂, 黒井和之

56. 村岡町和佐父

1987-V-4, 1♂, 黒井和之; 1988-IV-25, 1♂, 黒井和之; 1988-IV-26, 3♂♂, 黒井和之; 1988-IV-30, 1♂, 黒井和之; 1990-IV-9, 1♂, 黒井和之

57. 村岡町兎和野

1987-IV-29, 1♂, 足立義弘

58. 村岡町小城

1987-V-4, 7exs., 黒井和之; 1988-IV-25, 4♂♂, 黒井和之; 1988-IV-30, 12exs., 黒井和之; 1990-IV-9, 4♂♂, 黒井和之

その他データの無い記録地

59. 豊岡市神武山

60. 豊岡市有倉

61. 豊岡市上町

62. 出石町八坂

63. 出石町平田

64. 出石町有子山

65. 但東町奥矢根

66. 和田山町夜久野高原

67. 養父町満福寺

68. 大屋町杉ヶ沢高原

69. 日高町岩中

70. 日高町栃本

71. 日高町蘇武岳

72. 日高町阿瀬溪谷

73. 香住町蓮台山

74. 温泉町霧ヶ滝

75. 温泉町上山高原

76. 浜坂町清富

77. 村岡町瀬川山

現況及び考察

本種の産地を地図上にプロットしてみると一つの傾向がうかがえる。それは、分布が当地域内を流れる円山川・竹野川・矢田川・岸田川の4河川沿いの流域に集中していることである。つまり、但馬で最も大きな流域面積をもつ円山川、三川山を源とする竹野川、氷ノ山・瀬川山・妙見山・蘇武岳など広い山岳地帯から流れ出る多くの支流を持つ矢田川、鳥取県境に近く扇ノ山を源とする岸田川の4つの水系が主たる棲息域になっているのである。

《円山川水系》

豊岡市と城崎・日高・八鹿の各町及び本水系の支流である出石川の出石町の下流～中流域に産地が点在しており、それは大きな帯として産地群を形成している。但馬地域の中でも、もっとも早くから採集記録が見られ、豊岡市妙楽寺、同高屋（金山）、出石町城山など古い時代から好採集地として有名である。そのほかにも、豊岡市ならびに出石・日高両町に本種の棲息地が多数点在している。しかし、市街地に隣接しているため、近年の乱開発によって棲息地が宅地などに変貌しているところもあり、毎年個体数が減少しているように思う。食草であるカンアオイ類も成虫同様減少傾向にある。今後なんらかの形で保護の必要があろう。

上流域は、和田山町竹田（竹田城）・竹ノ内・夜久野高原、養父町満福寺、但東町高竜寺ヶ岳・奥矢根がおもな既知産地であるが、下流～中流域に比べると明らかに棲息地が少なくなる。本地域の南部（朝来郡）及び南西部（養父郡）にいくつかの産地があるものの、分布図を見ると大きな空白地帯になっている。

本水系では、中～下流域の平野部の低山地に棲息地が多いのが特徴であろう。しかし、上流域においても、今後調査を進めていけば新たな産地が見つかることと思う。

《竹野川・矢田川水系》

両水系には、中～上流域の山地帯に産地が多く、下流域の平野部に既知産地がないという共通点がある。

竹野川水系は、源流部である三川山周辺が主な棲息地である。矢田川水系も同様、三川山～蘇武岳にかけての山地帯に棲息地が点在している以外は、村岡町西部の瀬川山で若干の採集記録があるものの、鉢伏山周辺及び流域西部の美方町全域に既知産地がない。これまで、これらの地域で採集報告がないというのも意外であるが、筆者も幾度か調査に訪れたにもかかわらず発見にいたっていない。本水系ではないが、関宮町でも杉ヶ沢高原で数例の古い記録がある以外、古くから昆虫の採集地として調査の進んでいる氷ノ山周辺が空白地帯になっている。

三川山～蘇武岳にかけての山地帯には、個体数の多い棲息地がいくつかあるが、現在スギ・ヒノキなどの植林事業が進んでいる。今後、森林の変遷が進行していけば、これらの棲息地の存続が危ぶまれる。

未確認記録ではあるが、当会の山本一幸氏から聞くとところによれば、1972年の

浜坂高校生物部部報に、1970年初めに香住町御崎において2exsの記録があるという。しかし、標本が現存しておらず真偽が不明である。筆者も何度か調査を試みたが、再発見にはいたっていない。林床にはカンアオイ類もあり、棲息していてもおかしくない環境のように思う。もし当地で再確認されれば、当地域の西限になろう。

《岸田川水系》

本水系は、扇ノ山を源としている。本種は、上流の源流域である小ツッコ・シヨウブ池・上山高原などの、標高およそ1000mの山地から、中流～下流域にかけて幅広く棲息地が点在している。どちらかといえば円山川水系に近い産地群を形成しているように思う。しかし、下流域である浜坂町居組・観音山の棲息地は、間近に海をひかえた海岸沿いという。ほかの水系とは環境の異なった産地をもっている。どの棲息地においても個体数は少なく、幼虫の食草となるカンアオイ類も上流の上山高原周辺にまとまった場所がある以外は、中流の一部、それに下流の海岸沿いに狭い範囲で確認している。また、上流域の小ツッコ周辺の棲息地ではウスバサイシンを食草としており、ほかの水系とは異なった特徴があり、生態的にも興味深い地域である。

まとめ

本種の分布図を見ると、但馬地域のほとんどの産地が4つの水系に組み込まれるのではないと思われる。その中で点が線（帯）で結ばれるように思う。

たとえば、1) 円山川流域の地域、2) 竹野川・矢田川両水系の分水嶺である三川山～蘇武岳の山岳地帯、3) 岸田川流域。これら3つを大きな帯として見ると、1)～3)の間には連続した棲息地がないのがわかる。極端な例として、矢田川本流域沿い及び美方町全域は大きな空白地帯になっている。なぜこのような偏った分布になったのだろうか。

また分布図を見ると、北但の地域に産地が集中していて、中央部である八鹿町～関宮町を結ぶ線以南も大きな空白地帯になっているのも見逃せない。本来は棲息しているのに調査不足による結果なのだろうか。

その昔、本種はどのようにして当地域に進出し、分布を拡げていったのだろうか。どの産地が起源になるのだろうか。また、竹野川・矢田川及び岸田川の下流域の低

山地には進出しなかった（できなかった）のだろうか。それとも、昔は棲息していたのに何らかの原因で現在はなくなったのだろうか。もちろん、幼虫の食草であるカンアオイ類の分布が優先することはいうまでもないことであるが。

今後いくつかの新産地が見つかり、分布図の空白部を埋めることによって、これらの疑問が一步步つ解明されていくことと思う。

まとめを書くにあたり分布図を見直して、本種はどのような過去をたどって現在に至ったのか疑問を抱き、また但馬地域は広く自然に恵まれていると感じる次第である。

最後になったが、データを提供してくださった前平照雄・谷角素彦・足立義弘の諸氏に厚くお礼申し上げる。

参考文献

1. 木下賢司・前平照雄・福井文嗣（1986）但馬地域の蝶類目録，
IRATSUME 10:55-95.
2. 黒井和之（1988）但馬地方のギフチョウ新産地の記録，IRATSUME 12:78.
3. 和田山中学校科学部（1989）和田山町産昆虫目録
4. 足立義弘（1978）来日岳と三川山のギフチョウ，IRATSUME 2:26-27.
5. 足立義弘（1978）豊岡市下鶴井付近数種のチョウ，IRATSUME 2:22-25.
6. 石田達也（1982）ギフチョウ卵塊サイズの地方差について，
IRATSUME 6:10-18.
7. 但馬むしの会（1984）ギフチョウ情報あれこれ，混蟲ずかん 6:3-4.
8. 島田真輔（1982）美方町の蝶，IRATSUME 6:25-29.
9. 谷角素彦・足立義弘（1979）金山・蘇武山系の蝶類，IRATSUME 3:8-18.
10. 木下賢司（1979）床ノ尾山の蝶，IRATSUME 3:20-32.
11. 広畑政己・近藤伸一（1989）兵庫県産蝶類分布資料（5）
ギフチョウ・ウスバシロチョウ，ひろおび 8:1-8.
12. 但馬むしの会（1990）早春のギフ情報，混蟲ずかん 25:3
13. 木下賢司（1988）ギフチョウの卵をツバキの葉から採集，IRATSUME 12:85.
14. 高橋匡（1979）但馬地方昆虫目録（予報第1報），IRATSUME 3:45-58.
15. 谷角素彦・黒井和之（1987）但馬産ギフチョウのウスバサイシンへの
産卵例，IRATSUME 11:102.